冬の朝の校庭

月　日　名前

標準（ひょうじゅん）⑧

冬の朝の校庭

冬の寒い朝、校庭に出ると、地面が白くなっていることがある。これはしもである。しもは、空気の中の水じょう気が、冷えた地面や草の上で氷のつぶになったものだ。

しもができやすいのは、晴れて風のない夜の次の朝である。雲がないと、地面の熱が空へにげていき、地面が冷えやすくなる。風がないと、冷たい空気が地面の近くにとどまる。

また、地面をよく見ると、土の中から細い氷の柱が立っていることがある。これがしも柱である。土の中の水がこおり、下から水をすい上げながら、のびていくのである。

しも柱をふむと、ざくざくと音がする。朝の校庭で、音をたしかめてみるのも楽しいだろう。よく晴れた冬の朝には、ぜひ校庭の日かげを見てほしい。日なたでは早くとけてしまうしも柱も、日かげでは昼近くまで残っていることがある。ただし、畑や花だんのしも柱は、植物の根をいためないように、ふまないようにしたい。

1 しもは、何が氷のつぶになったものですか。

空気の中の

2 しもができやすいのは、どんな夜の次の朝ですか。

ア　くもって風の強い夜

イ　晴れて風のない夜

ウ　雨のふる夜

3 雲がないと地面が冷えやすいのは、なぜですか。

4 畑のしも柱をふまないほうがよいのは、なぜですか。

ぜんぶ　できたら　ほしに　いろを　ぬろう ☆ ☆ ☆

© きりんドリル kirindrill.com